

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立恵那高等学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和3年6月21日（月） 13:30～15:30
- 3 開催場所 岐阜県立恵那高等学校会議室
- 4 参加者

会長	伊藤 勝彦	恵那市議会議員、元恵那東中学校長
副会長	鎌田 基予子	元恵那市教育委員 100周年記念事業副実行委員長
委員	秋山 浩司	東海神栄電子工業代表取締役社長
	阿部 伸一郎	同窓会長 セントラル建設（株）社長
	新井 麻美	恵那くらしビジネスサポートセンター
	大畑 雅幸	恵那市教育長
	小関 はるか	恵那市商工課商業振興主任（ご欠席）
	高垣 浩	PTA会長
	蜂谷 明子	蜂谷医院医師
	本多 京子	恵那高校卒業生
学校側	岩木 隆義	校長
	古橋 良成	事務部長
	田中 誠二	教頭
	足立 幸司	教務主任
	磯部 徹	生徒指導主事
	林 正幹	進路指導主事
	石原 泰三	保健主事
	佐々木 俊哉	探究理数科部長

### 5 会議の概要（協議事項）

#### (1) 令和3年度学校運営基本方針について

意見1：欠席が多い生徒への対応と、それらの生徒がいることによる周りの生徒への影響はどうか。

⇒ 不登校傾向の生徒はスクールカウンセラーへ繋げたり、担任一人の負担にならないように複数の教員で担当したりすることで、組織的に対応している。

意見2：教職員でさえ心身の調子が優れない人がいる。教員の雰囲気クラスに伝わる可能性もあるので、定期的にストレスチェックやフォローをしていくことが大事である。また、生徒から情報をいかに早く吸い上げるかが必要であり、コロナ禍では今まで以上に指導を細かくしていく必要がある。

## (2) スクール・ポリシーについて

- 意見1：探究を1年生から3年生へと段階を踏んでいけるとよい。恵那高の進学には探究が生きてきており、社会でも必要なものである。
- 意見2：地元に戻る生徒が少ない。恵那で育った生徒が、将来恵那で働き、地元企業で活躍できるようになるとよい。そのためにも、合同企業説明会のようなものに生徒、保護者が参加し、地元の企業のことを知るとよいのではないかと。
- 意見3：本校独自で行っていることをまとめるとよいのではないかと。
- 意見4：保護者には学校がどのようなことを行っているかを分かりやすく伝えるとよい。
- 意見5：恵那高校には特徴的なことが沢山ある。これらをスクール・ポリシーに入れるとよい。
- 意見6：コロナ禍ではあるが、海外とのつながりをどのように行っていくのかを入れるとよい。いろいろな道があることを知ってもらう機会があるとよいのではないかと。
- 意見7：恵那高で行ってきた探究に代表される教育を、同窓会はハード面でなく、ソフト面で応援していきたい。企業から見て採用したいのは、ちゃんとした心根をもっている人物である。
- 意見8：生きる知恵、トータルな力、生き抜く力、多様性などのキーワードを入れてほしい。
- 意見9：小中学校でも年々不登校児童生徒が増えている。生きる知恵をつけることで、面白い人材が沢山出てきて、学校へも楽しく登校できるのではないかと。
- 意見10：恵那を地元とする小中学校の教員は5割であり、異動があるため、その学校で4年目・5年目となる教員は少ない。

## (3) その他

第2回協議会を10月以降、第3回協議会を2月に行う。

## 6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会において、本校の各分掌からの説明を受けた上で、全会一致で令和3年度の学校経営方針の承認が得られた。また、スクール・ポリシー策定に向けて、委員が学校への期待や意見を出し合った。議論は学校が現在行っている教育の継承と発展に関するもの、生徒の心の成長に関するもの、さらには地域課題から国際化まで学校の枠にとどまらない教育活動にまで及んだ。

スクール・ポリシーの策定に向けて、今回の議論をベースに案を作成し、第2回協議会において検討することになった。第3回協議会では最終的な調整と承認を行う予定である。